

# 仙台陣屋かわら版

第八十六号

(平成二十四年四月号)

HP: <http://www.town.shiraoi.hokkaido.jp/ka/jinya/> Mail: [jinya@town.shiraoi.jp](mailto:jinya@town.shiraoi.jp)  
〒059-0911 白老町陣屋町六八一 TEL/FAX 0144-851266 仙台藩白老元陣屋資料館発行

## 『国際姉妹都市提携三十周年記念展』開幕 準備中には強力な助っ人も

かねてからお知らせしていました、ケネル市との国際姉妹都市提携三十周年を記念した展示会が、いよいよ開幕となりました。町内各小中学校から沢山の資料を提供していただけたお陰もあり、およそ百二十点という、会場から溢れそうな量の展示品が集まりました。三十年という歳月の重みを、十分に感じていただけるのではないのでしょうか。

大昭和製紙(現在の日本製紙)のカナダ進出を契機とする両都市の関係は、豊富な森林資源を有する地域同士だからこそ結実したものでした。そして多くの方々が陰日向となり、両都市の交流を支えてくださってきたのです。また町の提携は各小中学校同士の繋がりにも派生し、今回の展示にも子ども達の友情の証が様々な形となって現れました。作品のプレゼントや親善の手紙、ときには大掛かりな記念品まで、実に多様な品が三十年間の

間に交わされてきたと言えます。

やや余談ですが、交流品にはやはり国の特徴や性格が反映されているようにも思えます。日本のプレゼントの感性とカナダのプレ



ゼントの感性、それぞれの違いが資料を目の当たりにすることで改めて実感できます。そうした新たな発見があるかも知れませんが、是非資料館まで足を運びください。芽吹き始めた陣屋の緑もあわせてお楽しみいただけます。展示会は五月六日(日)まで。ゴール

デンウィークも毎日開館しています。

ところで、今回の展示会の準備にあたっては強力な助っ人が資料館を訪れてくれました。竹浦中学校一年生の藤島秀さんが、職場見学・体験として、展示作業のうち主に写真の飾りつけを手伝ってくれたのです。慣れない作業で大変だったと思いますが、おかげで準備もスムーズに進められました。ありがとうございました。

## 春になったら端午の節句

四月二十一日(土)から五月五日(土)まで恒例の「武者人形展」を開催します。



皆さんは一年に五回、節句があるのをご存知ですか? 一月七日の七草を食す人日(じんじつ)、三月三日の上巳(じょうじ)、五月五日の端午(たんご)、七月七日の七夕(ちせき)、九月九日の重陽(ちようよう)と、一年には五回の節目があります。もともとは陰陽道の陰陽五行説にちなんだ習慣でした。奇数の重なる日を陽、つまり好ましい日とする

考え方です。現在の年五回に定まったのは江戸時代、幕府が公式の節会と決めたことに由来します。今日では九月九日にお祝いをするのは、「こくまれ」となっており、また内容も昔と比べ大きく様変わりしました。

さて、端午の節句に飾られる菖蒲太刀(しよぶだち)も、様変わりしたものの一つです。菖蒲は邪気を払うものとして、古来より端午の節句に用いられました。また葉の形が刀に似ていること、武士が台頭してくると武事・軍事を重んじる意味の尚武(しよぶ)と音を通じることなどもあって、軒に吊るしたり菖蒲湯にしたりと、様々に活躍してきました。昔は菖蒲を束ねた刀でチャンバラごっこをしたり、菖蒲打ちと呼ばれる、地面を叩いた音の大きさを競う遊びも行なわれていました。また時代が降ると観賞用に彩色された木太刀などへと変化していったのです。

写真の菖蒲太刀は木目込みのものであり、前号で紹介した雛人形の寄贈者の方が制作されたものです。今年も新しい顔ぶれが加わった「武者人形展」、皆さん是非お越しください。お待ちしております。

## 『麗しの雛人形展』が閉幕しました

二月十一日より開催しておりました『麗しの雛人形展』が、三月三日をもって閉幕しました。会期中、三四〇名以上にも及び方が資



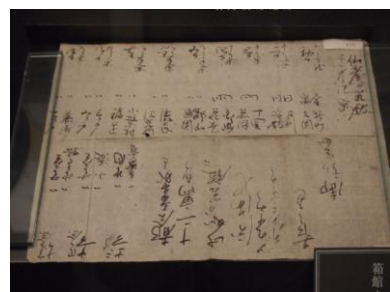
料館を訪れ、たくさんの人たちに雅なひとときを堪能してもらえたかと思えます。

また、三月三日のお雛様会には六十名以上の方が来館。資料館友の会の平松さんによる紙芝居は、大人も子どもも夢中になって聞き入っていました。お雛さまクイズでは全問正解者がなんと二人も。紙雛作りでも、熱心に作り方を学ばれていかれました。資料館といたしましても、皆さんに喜んでいただけて幸いです。

新しいお雛様たちが増えて年々華やかになる本展示会も、来年には六回目を迎えます。次回も多くのお雛様たちを皆さんにお披露目できればと思います。資料館を彩ったお雛様たち、そして足をお運びになられた皆さん本当にありがとうございました。また来年の開催をお楽しみに。

## 不定期シリーズ④【陣屋再発見】

資料館解説をしていると、稀に仙台藩士の白老までの行程が陸路であったことに驚かれる方がいらっしやいます。長いときでは二ヶ月を要した旅路だったことに、深い関心を寄せられる方も珍しくありません。そんな藩士たちの出兵・帰還の途上、どこで宿泊したのかを詳細に記録した資料をご紹介します。



資料に名前はありません。安政四年出兵の藩士が、道中通過した宿場町などを記したもので、仙台を経てから青森に到着するまでの十二日間が記されています。現在の県境を参考にすると、二日で岩手県に入り、その五日後には青森県の境にある三戸を通過しています。ここまでが計七日、青森湊までに日数がかかっているのは、街道が八甲田山の東側を迂回して野辺地を経由するようになっていたからでしょうか。十二日間もひたすら歩き続ける苦労は、私たちには想像もつかない世界です。

「仙台陣屋かわら版 第八十六号(平成二十四年四月号)」

発行日: 平成二十四年三月二十一日(水)

発行所: 仙台藩白老元陣屋資料館 担当者: 平野・干場